# 個人情報漏えいの動向

牧野二郎●弁護士

### 漏えい人数は3053万人、想定損害賠償額は2兆3000億円 原因は紛失や管理ミス等が多く、業務上の改善必要

#### 1件当たり3万人超の漏えい、大型化が特徴

個人情報の漏えいに関して統計的にまとめたものは少 ないため、ここではNPO日本ネットワークセキュリティ協 会がまとめている「情報セキュリティインシデントに関する 調査報告書」(\*1)を基礎におくものとする。個人情報の漏え いは、すべてが報告されるわけでもなく、また報道される ものもすべてではない。したがって、報道されたものは特 徴を把握するには重要だが、決して総数の把握とはなら ない。総数は報道された内容から推測するしかない。

ここ数年の推移を見ると、事故の総数自体は、2005年 1032件、2006年993件、2007年864件と減少している。 しかし、重要なのは漏えいした個人情報の合計数(漏えい 人数) であり、これを見ると、2005年は881万人、2006年 は2224万人、2007年は3053万人と大幅な増加を続けて いる。1件当たり3万人超の漏えいが起きていることにな り、近時の個人情報漏えいは、大型化がひとつの特徴と 言える。 想定損害賠償総額は 2005 年は 7002 億円、 2006 年は4570億円と減少するが、2007年では2兆2710億 8970万円と前年比で約5倍にも跳ね上がっている。

#### 特徴的な事件: 大日本印刷による大型漏えい事件

わが国最大の漏えい事件となったのが、2007年3月に 判明した大日本印刷による受託情報の大型漏えい事件 だ。主要なクレジット会社など43社から受託していた顧客 情報、合計863万7405件が、2001年頃から発覚直前の 2006年5月頃までの長期間に漏えいしたというものであ る。大日本印刷はプライバシーマークを取得しており、ま た監視カメラの設置、生体認証による入退室管理などを 実施するなど、多様なセキュリティ対策を実施していたと いう。

漏えい原因としては、取り扱うデータの管理において、 取扱者が多数いたこと、メディアへの書き出しが制限され ていなかったこと、媒体の持ち出しが検出できなかったこ となどが挙げられている。

しかし、こうした内部者からの漏えい問題は2004年2 月、451万7039件の個人情報漏えいを引き起こしたソフト

バンクBBによる個人情報漏えい事件の際に明らかにされ ているものであり、その困難さとともに、大量のデータを 取り扱う際の留意点(分散管理や暗号化、アクセスログ解 析、リアルタイム管理システムの導入など)として分析、指 摘されてきたものにほかならない。何も目新しいものでは ない。

事件、事故の多くは、まったく未知の行為や事態から起 きるというのではなく、そのほとんどは対応できるはずの 対応ができていないことによって引き起こされている。大 日本印刷の場合も、従業者監督や安全管理対策に問題 があったというほかなく、また、大量のデータが抜き取ら れるといった極めて重大でずさんな対応があり、さらに外 部監査、セキュリティ監査を受けていなかったとの指摘も あり、緊急の対策が求められていたわけである。

#### 事故原因の特徴: 社員の業務上の問題が8割超

大日本印刷の場合も、同社の業務委託先の元社員によ る犯行とされ、同委託先社員は販促用ダイレクトメールを 取り扱う電算処理室内に勤務し、日常的にデータに接触し ており、この間データを不正に記憶媒体に書き出し、持ち 出していたという。手口としてはソフトバンクBBとまった く同様と言ってよい。こうした内部犯罪、内部不正行為が 原因として最も多いものであるうえ、大量漏えいをもたらし ている原因であるとすれば、この原因への的確な対策なく して個人情報保護対策はないと言ってよいだろう。

2007年の事故の内容分析(各件数に占める原因の割 合) を見ると、紛失など20.5%、管理ミス20.4%、誤操作 18.2%、盗難16.6%、不正持ち出し7.9% などとなっている。 社員の業務上の問題と言えるものが80%を超えており、業 務上の改善が必要なことを示している。

(\*1) NPO 日本ネットワークセキュリティ協会 [2007年情報セキュ リティインシデントに関する調査報告書【速報版】」(2008年5月19日) http://www.jnsa.org/result/2007/pol/incident/2007 incidentsurvey sokuhou.pdf



## 「インターネット白書ARCHIVES」ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年~2012年までに発行したインターネット の年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以 下のウェブサイトで公開しているものです。

### http://IWParchives.jp/

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- ●記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- ●収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の 著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- ●著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- ●このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくま で個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- ●収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名お よび年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記くだ さい。
- ●オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D (初期は株式会社インプレス)と 著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全 に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的 な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D | 🖂 iwp-info@impress.co.jp

©1996-2012 Impress R&D, All rights reserved.